



電子黒板は作戦基地



授業のねらい・ポイント

3学期の行事であるリレー集会に参加する名前の順後半の児童たち（前半の児童たちは1学期に走った）の順番を学級委員が中心となり、5年2組のためにという3学期学級目標を意識し、どうしたら勝てるかを話し合いながら決めていかせたかった。

授業の展開

- ① リレーメンバーを名前の順に電子黒板上に書き込む。
- ② 1学期の成績を上回るように作戦を考えながらみんなが話し合い、走る順を決めていく。
- ③ 決定後、順番の確認をし応援の言葉をみんなで贈る。
- ④ 授業後、電子黒板上にかかれた順番を保存、印刷し児童に配る。

利用した教材・コンテンツ

電子黒板付属ソフトウェア

電子黒板の設置面での工夫

児童達が電子黒板を操作する際、ドラッグがうまくできないことが多い。これは、力加減がつかめず汗により指がボード上でキュッキュッと引っかかってしまうということが原因であった。しかし今回、書記が素晴らしいアイデアを開発した。それは指に持っているハンカチを巻き付けたのである。そのおかげで摩擦がなくなりスムーズにドラッグができるようになった。これは画期的なテクニックの開発（？）だと思う。子どもの発想ってすごいな、と思った瞬間であった。

電子黒板を使う上でのねらい

- ・通常の黒板にチョークで書いた児童の名前などは拡大、縮小、移動などは消さない限りできないが、今回使用した電子黒板では黒板上に書かれた文字はオブジェクトとして認識され、拡大、縮小、回転、移動、グループ化等が簡単にできる。この機能を利用してオブジェクト化された児童の名前をリレーの走る順に話し合いに即して随時入れ替えながら効率よく決めていくことができた。また、児童たちにはデジタルの利点といえるこの機能を体感してもらいたいというねらいもある。
- ・もう一点、黒板上にかかれた情報を学級ノートに写し印刷用紙に書き写して印刷・配布という従来の方法ではなく、黒板上の情報を即保存・印刷をして児童に配布するという効率化もねらっている。



すごい発明(?) 指に注目!!

電子黒板を使ったことによる効果

- ・本来なら黒板上で話し合いに即して名前を消して書き直すことを繰り返さなくてはならないが、オブジェクトとしてドラッグで移動、拡大ができたので学級委員さんたちはいちいち消したり書いたりする煩わしさも無く楽しみながら話し合いを進めていた。他の児童もデジタルの利点を体感でき、積極的に話し合いに参加していた。
- ・決まった順番を即プリントにして配布できたので書記さんたちの負担軽減になり、児童たちも10日後にある本番まで順番を忘れずにいられるので喜んでいた。



～ 西田先生からの一言 ～

書いた文字を移動することができるってすごいことですね。移動だけでなく、大きさを変えたりもできるので、作戦を立てるにはもってこいです。ツールによっては、手書きから、パソコンの字に変換したりもできますから、読みにくさの解消にも役立つかも・・・電子黒板に付属のツール以外にも、使えるフリーのツールがありますのでお使いの電子黒板はダメとあきらめないでください。





係活動で準備もできる



授業のねらい・ポイント

- 電子黒板の事前準備の簡略化をはかるため。
- 自分たちが大切に使いこなしていく機器という価値を植え付けるため。

授業の展開

1学期

- ① 機器の設置場所のマーキング（学級全体が見ることのできる完全な位置・角度・高さ）
- ② 機器の説明（電子黒板・プロジェクター・パソコン）
- ③ 係りの選出・・・できるだけゲームの知識に堪能な児童5名で構成
- ④ トレーニング期間・・・休憩時間や放課後、機器の接続の手本を見せ覚えてもらい、ストップウォッチでタイムを計りながらまずは5分で設置完了を目指しトレーニング
※最終3分を目指す

⑤ 係り活動開始!

2学期

- ① 係りの選出・・・3名（電子黒板の設置接続1名・プロジェクターの設置接続1名・パソコンの起動1名）
- ② トレーニング期間・・・1学期の係りに教えてもらいながら3分を目指す。

③ 係り活動開始!

3学期

2学期と同様

電子黒板の設置面での工夫

- 事前準備の簡略化を図るため、事前に教室にベストな電子黒板とプロジェクタの設置ポイントをマーキングしておいてセットしている。



プロジェクタのマーキング



セット



電子黒板のマーキング



ずれ防止のストッパー

- セットは「セッティング係」という児童の係が行っている。毎学期交代するのだが人気度の高い係である。
- 学期はじめにトレーニング期間をもうけ、目標セッティングタイム3分を目指しトレーニングに励む。現在余裕で3分を切るようになった。児童たち、特に男子は家庭用テレビゲームなどでセットはなれており、要領をつかむと非常に早い。
- 2学期は学級内で2代目のセッティング係となるため、係の児童が欠席しても1学期のセッティング係がサポートできるが1学期はそうはいかないため、多めの人数で係を構成するのがベスト。私の学級では1学期5名、2学期3名である。
- 学級内では係り活動を行う場面（準備）は休憩などの授業前であるので、その時間を割いてみんなのためにセットしている姿が学級内で認められ人気者になる。キャリブレーションをこの係りだけがおこなえる仕事として与えると、休憩時間を割いて準備している係りの児童たちのモチベーションを上げることになりGOOD!

彼らのおかげで、電子黒板活用の負担感の多くを占める準備の大変さが無くなり授業にスムーズに入れている。係りのみんな、本当にありがとう!



収納時



活用時

～ 西田先生からの一言 ～

電子黒板を活用するためには、準備に時間がかかってしまって、授業に差し支えるということすら聞きます。こうしておけば子どもの手でも準備できますね。さらに、子どもへの意識付けも図ることができるアイデアですね。朝のうちに準備しておき、帰りにかたづけるようにすることができ、パソコンのスタンバイの機能を使うと、さらに使いたい時にすぐ使えます。

